

先ず、動く！

校長 吉田 敦

檀原高校の校訓は『克己』で、「自分の欲望や邪念に打ち克つ」という意味です。「己に克つ」などと耳にすると、一切の欲を捨て、一人山奥などにこもって黙々と修行する…というようなイメージもありますが、「何かを求める」ことは人間にとって非常に大切な気持ちですので、『克己』は、「欲望」そのものを否定するものではないと思います。意味を少々補足すると、「事を成し遂げようとすれば、『自分勝手に自己中心的な欲望(私欲)や、邪(よこしま(ねじ曲がっている))な心は捨てて』、取り組まねばならない」ということになるかと思えます。あらためて意味するところについて考えてみると、もしも、全く一人きりの場、状況であるならば「自分勝手」や「自己中心的」などという情態は成り立ちませんし、「邪」というものも社会通念上の規範のようなもの、「真っ直ぐ(?)」で「正しい(?)」ものがあるとするからこそ、それに対して「ねじ曲がっている」となるわけですから、『克己』という概念は、いたって社会的なものであることに気づきます。つまり、自分一人きりの場では得られない心の持ちよう、様々な人間関係の中で、自分自身を客観的に見たり、自分自身が属する場(社会)に積極的に関わったりすることによって身に付く境地、さらに言えば、常に「他者」を意識すること、また、自ら「より良き社会」を創ろうとする豊かな「社会性」と「主体性」を必要とする境地である、と、私は解釈しています。

さて、今年度のスローガンは、昨年度に引き続いて、「2つの“挑戦”!! 1. 自らが求めるものへ 2. 自らに求められるものへ」としました。ここでの“挑戦”は、'他者に勝る'ことを目指すものではなく、'自分を取り巻く社会や周囲の人たちとの関わり、関係性を常に意識しながら日々努力し、その中で自分自身を高めること'を意味していて、校訓『克己』の教示に通ずるスローガンです。昨年度は、サブ・スローガンとして「キーワードは“感謝”と“継承”」と付記しました。これは、前述の「社会性」のある“挑戦”をして欲しいという2.の「求められるもの」の理解にはもう少し説明が必要かと思い付け加えたものです。

あくまでも個人的な感覚ですが、現代社会の特徴の一つは「足り(過ぎ)ている」ということだと思っています。つまり、何かにつけて必要数よりも多い数が存在する、言い換えれば「余っている」という状況のことです。「足りない」よりはいいのかもしれませんが、今の世の中には真偽不明の情報があふれていて、いつの間にか私たちはそれらの情報に踊らされ、実際に自分の目で見たり、自分の足で探したり、自分の頭で考えたりすることが奪われた状態になって、どこの誰が決めたのか分からない優先順位に従って並べられた多くの選択肢の中から、成功することも、失敗することもなく、丁度いい(?)ものを選ぶ…ということが増えているような気がするのです。(良いか悪いかは別の話です…。)

今年度のサブ・スローガンは、「主体性」を意識した「先ず、動く！」にしました。『進路選択』は、もちろん自分の進む方向を「選ぶ」ことですが、選ぶことに比重を置きすぎではいませんか？「他にもっと自分に合った…」とか、「あとでもっといいものが…」とか、「他に…」「あとで…」と考えているうちに時間は過ぎていきます。とにかく、「先ず、動く！」ことです。もちろん、いい結果ばかりが出ることはなく、それこそ失敗と後悔が続くかもしれません。しかし、「やってみて結果を出す」ことに大きな意味があるのです。そして、そこで最も重要なことは、出た「結果」は誰のものでもなく誰のせいでもない、逃げることも誤魔化すこともできない「自分のもの」として「潔く」引き受ける姿勢(覚悟)で「先ず、動く!」ことです。「今の自分」が「今、自分の目の前にあるもの」に対して「先ず、動く!」ことによって得られる「もの(結果)」が、未来の自分の、自分だけの財産になります。実際に何が起こるのか誰にも分からない「未来」には、現在の選択肢が残っている保証などどこにもありません。しかし、「動く」ことを繰り返すことによって得られる多くの「もの」が、みなさんの身体の中に蓄積され、その一つ一つが繋がり、反応し合って、これから未来に向け「進むべき道」を照らしてくれると思います。

『進路選択』というのは、「選ぶ」ことではなく、ただ「進む」ことと言えるのかもしれませんが。